

令和2年度 港区政策評価シート

1 政策名・所管部門

政策No.	16	豊かな国際性を生かした多文化共生社会を推進する	
所管部	産業・地域振興支援部	関係部	

2 政策がめざす方向性

多言語による正確でわかりやすい情報提供を行い、港区に住み、働き、訪れる多くの外国人の安全・安心を確保し、快適な日常生活を実現します。外国人の地域社会への参画を促し、日本人と外国人がお互いの文化的違いを認め、地域社会の一員としてともに考え、行動し、支え合う多文化共生社会の実現をめざします。大使館や国際交流団体、国際的な企業、NPO等が集積する国際性豊かな港区の特性を生かし、多様な主体との協働により、世界に誇れる魅力あふれる成熟した「国際都市・港区」をめざします。

3 施策の取組状況（詳細別紙施策評価シート）

評価区分 A（達成）、B（概ね達成）、C（達成が不十分）

①	施策名	外国人の安全・安心の確保	評価	A
	成果目標	自然災害、健康被害、言語・文化・価値観の違いなどから生じる課題が解決され、外国人の安全・安心が確保されている		
②	施策名	外国人の快適な日常生活の実現	評価	B
	成果目標	情報提供方法が充実することなどにより、外国人の快適な日常生活が実現されている		
③	施策名	外国人と日本人が相互に理解し支え合う国際都市の実現	評価	B
	成果目標	外国人と日本人が相互に理解し支え合う環境が実現し、外国人の参画と協働が進んでいる		
④	施策名	多様な主体との協働による国際都市としての魅力の向上と発信	評価	B
	成果目標	大使館等と区の連携を深め、国際都市としての魅力が高まり、国内外に広く発信されている		
⑤	施策名		評価	
	成果目標			
⑥	施策名		評価	
	成果目標			

4 予算額・決算額・執行率（単位：千円）

年度	平成30(2018)年度	令和元(2019)年度	令和2(2020)年度
予算額	145,538	114,997	127,073
流用・補正	△ 5,901	△ 5	—
決算額	115,866	102,732	—
執行率	83.0%	89.3%	—

予算・決算額の推移

令和元年度は、台風、新型コロナウイルス感染症拡大予防のためイベント等の中止により執行実績の残があり執行率は89.3%となりましたが、前年度比6.3%増と改善されています。

平成30年度は、北青山コミュニティ施設の空調設備GHP改修工事など臨時的な要因により、決算額が令和元年度より多くなりました。執行率の83%は、契約落差によるものです。

5 政策を取り巻く社会経済状況等		
計画期間中の社会経済状況等の変化 ・社会経済状況 ・人口動向（年少人口、生産年齢人口、老年人口） ・財政状況など	平成31年4月の出入国管理法の改正により、新たな在留資格「特定技能」が追加されるとともに、令和元年6月「日本語教育の推進に関する法律」が制定され、自治体の責務として地域における外国人への日本語教育推進が自治体の責務とされた。 これにより、自治体における外国人受け入れのための環境整備や、日本語教育の推進といった日本人と外国人との「調和」がとれた地域社会の実現のための取組がより求められるようになった。	
区民ニーズ等 ※区民アンケートや調査、区民から寄せられた意見等	・ことばについて 「やさしい日本語」を希望する外国人が55.6%と半数を超えている。また、日本語学習で期待していることは、日本文化や習慣を知ることが48.9%、日本人との交流に47.5%となっており、言語習得と交流等を望んでいることが分かった。 ・コミュニティ活動について 地域のコミュニティやグループに参加している人が19.2%に留まっているが、興味がわくものであれば参加してみたい人が42.6%おり、地域活動の参加に意欲がある外国人が一定数いることがわかった。	
6 一次評価（所管部門による評価）		
政策の達成状況	施策の達成度	A:達成 1 B:概ね達成 3 C:達成が不十分 0
	・多文化共生社会を実現するために、行政情報を様々な媒体で日本語、英語、中国語及びハングルの4か国語で提供するとともに、地域社会の共通言語となる「やさしい日本語」での提供を行い、令和元年度の実態調査では、68.5%の方々が概ね的確に情報が提供されていると回答しています。 ・地域社会の共通言語となる「やさしい日本語」を通じて、外国人が地域へ参画するきっかけづくりを行うとともに、地域の受入体制を整備するために、町会・自治会、幼稚園PTA連合会等に「やさしい日本語」講座を実施し、多文化共生社会の実現を推進しました。	
今後の政策の方向性 重点的・優先的に取り組む施策、課題等 ※国や東京都、他団体の動向、区民ニーズ等を踏まえる	「多文化共生社会における外国人の地域参画と協働の推進」のさらなる実現 ・外国人へ向けた多言語による効果的な情報伝達 防災、医療保健など区民生活に必要な情報をやさしい日本語をはじめとした多言語での発信と電子媒体による情報発信の強化 ・日本語学習をきっかけとした相互理解の促進 外国人の日本語学習を支援するとともに、日本語学習のための拠点づくり、日本文化や習慣を通じた日本人と外国人との交流を進める ・多様な主体との連携の強化による外国人の地域参画の推進	
7 二次評価（港区行政評価委員会による評価）		
政策の達成度	☒ A:達成 ☐ B:概ね達成 ☐ C:達成が不十分	
	・施策「外国人の安全・安心の確保」については、大半の活動指標が目標に達しており、成果目標を達成しています。 ・政策としても総合して成果目標を達成しているものと評価します。	
今後の政策の方向性 重点的に取り組む施策・課題	・外国人の生活実態やニーズに即し、事業を単発で実施するのではなく、相互に連携をさせながら、外国人にも住みやすい地域社会に向けて、取組を充実・強化していく必要があります。 ・外国人が身近に参加しやすいコミュニケーションの場をつくるとともに、外国人のニーズを吸い上げて施策に反映していく仕組みづくりを検討する必要があります。 ・外国人向けのパンフレットの配布方法など、必要な情報が必要な人に届くように工夫する必要があります。 ・外国人の関心が高い「防災」をテーマとしたり、やさしい日本語教室などと連携することで、外国人の参加を広げることも有効と考えます。	

施策評価シート

施策① 外国人の安全・安心の確保					A：達成、B：概ね達成、C：達成が不十分	
施策担当課	国際化・文化芸術担当	関係課	防災課、各地区総合支所協働推進課		評価	A:達成
成果目標	自然災害、健康被害、言語・文化・価値観の違いなどから生じる課題が解決され、外国人の安全・安心が確保されている					
成果目標の達成状況及び評価	多文化共生社会を実現するために、行政情報を日本語、英語、中国語、ハングルの4か国語で提供するとともに、地域社会の共通言語となる「やさしい日本語」での提供を行っています。また、災害時に外国人に的確な情報提供をし、意思疎通を円滑に行う「港区国際防災ボランティア」を育成しています。令和2年4月1日現在、152人が登録しています。					
今後の施策の方向性・課題	情報の多言語化(日本語、英語、中国語、ハングル)を継続しつつ、地域社会の共通言語となる「やさしい日本語」での情報提供を行うとともに、「みなと防災フェスタ」を通じて、外国人への防災意識を普及・啓発し、安全・安心を確保していきます。					
施策の推進のため取り組んでいる事業						
1 多文化共生社会をめざした国際化施策の推進					国際化・文化芸術担当	
活動指標	H29 (2017) (当初)	R2 (2020) (目標)	H30 (2018) (実績)	R元 (2019) (実績)	R2 (2020) (予測)	達成状況
行政サービス全般に満足している外国人の割合	90%	90%	-	91.9%	90%	A:達成
達成状況	多文化共生社会を実現するために、行政情報を日本語、英語、中国語、ハングルの4か国語で提供するとともに、地域社会の共通言語となる「やさしい日本語」での提供を行いました。					
今後の方向性・課題	情報の多言語化(日本語、英語、中国語、ハングル)を継続しつつ、地域社会の共通言語となる「やさしい日本語」での情報提供を行います。					
2 外国人の災害対策に関する取組の充実					国際化・文化芸術担当	
活動指標	H29 (2017) (当初)	R2 (2020) (目標)	H30 (2018) (実績)	R元 (2019) (実績)	R2 (2020) (予測)	達成状況
自然災害等について特に不安を感じていない外国人住民の割合	11.2%	12.5%	-	-	12.5%	A:達成
達成状況	外国人が災害への知識と理解を深め、防災に関心を持ち、各地区で実施する防災訓練に参加することを目的に、平成29年度から、みなと防災フェスタを実施しています。参加者数実績は、平成29年度：外国人39人、日本人29人、平成30年度：外国人250人、1,350人、令和元年度：外国人300人、日本人1,500人と増加傾向にあります。 また、災害時、外国人に的確な情報提供と意思疎通を円滑に行うために、平成27年度から「港区国際防災ボランティア」制度を創設し、ボランティアを育成しています。令和2年4月1日現在、152人が登録しています。					
今後の方向性・課題	みなと防災フェスタは、年々来場者が増加傾向にあるものの、各地区防災訓練への外国人参加者は十分ではない状況です。外国人への周知方法や訓練での多言語対応など、各地区の防災訓練と連携して、より参加者の増加に繋がるイベントにしていける必要があります。					

施策評価シート

施策② 外国人の快適な日常生活の実現					A：達成、B：概ね達成、C：達成が不十分	
施策担当課	国際化・文化芸術担当	関係課	区長室	評価	B：概ね達成	
成果目標	情報提供方法が充実することなどにより、外国人の快適な日常生活が実現されている					
成果目標の達成状況及び評価	区政情報を様々な媒体(区HP(日本語、英語、中国語、ハングル)、メールマガジン(英語、中国語、ハングル、やさしい日本語)、Facebook(英語、やさしい日本語)、多言語AIチャットボット(英語、やさしい日本語)を活用し行いました。令和元年度の実態調査では、68.5%の方々が概ね的確に情報が提供されていると回答しています。					
今後の施策の方向性・課題	HPではより広く周知が必要な固定的な情報、SNSでは流動的な情報を掲載するなど、情報発信ツールの使い分けを行うことにより、より効果的な情報発信を実施します。					
施策の推進のため取り組んでいる事業						
1 行政情報の多言語化の推進及び提供手段の充実				国際化・文化芸術担当		
活動指標	H29(2017) (当初)	R2(2020) (目標)	H30(2018) (実績)	R元(2019) (実績)	R2(2020) (予測)	達成状況
日常生活で特に不便を感じていない外国人の割合	33.80%	35%	-	26.70%	30%	B：概ね達成
達成状況	行政情報は、日本語、英語、中国語、ハングルの4か国語でHPにより発信するとともに、毎月2回、希望する言語(英語、中国語、ハングル、やさしい日本語)で配信する「ミナト・インフォメーションメール(MIM)」(登録者数：英語476人、中国語77人、ハングル48人、やさしい日本語104人)や、Facebookに英語とやさしい日本語で配信する「ミナト・インフォメーション・ボード」(フォロワー数1,048人)、Facebookのメッセージアプリで「多言語AIチャットボット」を行っています。 また、外国人が転入時に特に知りたい情報をまとめた「Must Know Information」と区の基本的な行政情報刊行物を袋詰めにした「ウェルカムパッケージ」を、転入手続を行った外国人に希望する言語(英語、中国語、ハングル)のものを配布しています。 令和元年度の実態調査では、68.5%の方々が概ね的確に情報が提供されていると回答しています。					
今後の方向性・課題	HPではより広く周知が必要な固定的な情報、SNSでは流動的な情報を掲載するなど、情報に応じて情報発信ツールの使い分けを行い、効果的に情報発信していきます。					

施策評価シート

施策③ 外国人と日本人が相互に理解し支え合う国際都市の実現					A：達成、B：概ね達成、C：達成が不十分		
施策担当課		国際化・文化芸術担当		関係課		評 価	B:概ね達成
成果目標		外国人と日本人が相互に理解し支え合う環境が実現し、外国人の参画と協働が進んでいる					
成果目標の達成状況及び評価		地域社会の共通言語となる「やさしい日本語」を通じた外国人と日本人のパートナー活動を行い、外国人が地域へ参画するきっかけづくりを行うとともに、町会・自治会や幼稚園PTA連合会等の受入れる日本人に対して「やさしい日本語」講座を実施し、多文化共生社会や多文化交流について周知し、地域の受入体制を整備を始めました。					
今後の施策の方向性・課題		引き続き、地域社会の共通言語となる「やさしい日本語」を活用した取組を推進するとともに、地域の受入体制を整備しながら、外国人の地域参画と協働を進めていきます。					
1 外国人の区政への参画の促進					国際化・文化芸術担当		
活動指標		H29 (2017) (当初)	R2 (2020) (目標)	H30 (2018) (実績)	R元 (2019) (実績)	R2 (2020) (予測)	達成状況
在住外国人意識調査有効回収率		17%	19%	-	16.50%	-	A:達成
達成状況		港区内に在住在勤等で地域社会に軸足を置きつつ、国際社会を舞台に世界で活躍してきた経験をお持ちの方々にグローバルな視点でご意見等をいただく「港区国際力強化推進会議」や、一般公募の外国人を委員に含む「港区国際化推進アドバイザー会議」を開催し、その意見を区政に反映しています。また、2年毎に港区民世論調査、3年毎に港区国際化に関する実態調査を行い、外国人の区政に対する要望や意見を把握し、区政に反映するよう努めています。					
今後の方向性・課題		外国人が区政に参画するためには、区が発信する情報や資料の多言語化、通訳の配置、やさしい日本語の推進等による「言葉の壁」の解消が必要です。今後も引き続き、多言語による情報提供を継続しつつ、地域の共通言語としてやさしい日本語での情報発信を行っていきます。					
2 外国人の地域社会への参加の促進					国際化・文化芸術担当		
活動指標		H29 (2017) (当初)	R2 (2020) (目標)	H30 (2018) (実績)	R元 (2019) (実績)	R2 (2020) (予測)	達成状況
地域のコミュニティ活動やグループに参加している外国人住民の割合		19.30%	25%	-	19.20%	20%	B:概ね達成
達成状況		日本語学習を通じた外国人と日本人の交流促進事業で、「やさしい日本語」を通じた外国人と日本人のパートナー活動の一環として、地域の盆踊りや豆まきに一緒に参加し、外国人が地域へ参画するきっかけを提供するとともに、町会・自治会や幼稚園PTA連合会等の地域の日本人に「やさしい日本語」講座を実施し、多文化共生社会や多文化交流について周知し、地域の受入体制を整えています。					
今後の方向性・課題		令和元年度の実態調査では、地域活動やまちづくりへの参加意欲がある外国人は約67%おり、そのうち42.6%が興味がわくものであれば参加してみたいと回答していますが、実際の参加率は7%程度に留まるなど、地域活動への参加が進んでいません。今後は、地域の受入体制を整備し、外国人ニーズを的確に把握しながら、外国人に地域の活動を紹介していきます。					

3 多文化共生社会を推進する「やさしい日本語」の普及

国際化・文化芸術担当

活動指標	H29 (2017) (当初)	R2 (2020) (目標)	H30 (2018) (実績)	R元 (2019) (実績)	R2 (2020) (予測)	達成状況
日本語習得支援事業（仮称）マッチング数	—	90組	74組 (+74組/年)	198組 (+124組/年)	288組 (+90組/年)	A:達成
達成状況	「やさしい日本語」を通じた外国人と日本人のパートナー活動や、外国人と日本人が地域の盆踊りや豆まきに参加する交流会などを実施するとともに、町会や幼稚園PTA連合会等の地域の人に「やさしい日本語」講座を実施しました。 また、「やさしい日本語」が地域の共通言語として活用されるよう職員にも「やさしい日本語」講座を実施し、行政情報を的確かつ容易に「やさしい日本語」に変換できるように「やさしい日本語」書き換え支援システムを導入しました。					
今後の方向性・課題	引き続き、日本語学習を通じた外国人と日本人の交流促進事業を推進し、「やさしい日本語」を地域の共通言語として活用されるように周知します。					

4 文化をとおした国際交流の推進

国際化・文化芸術担当

活動指標	H29 (2017) (当初)	R2 (2020) (目標)	H30 (2018) (実績)	R元 (2019) (実績)	R2 (2020) (予測)	達成状況
国際友好広場来場者数	15,000人/年	16,000人/年	22,610人/年	中止	中止	-
達成状況	各国文化等を紹介する区民まつりの国際友好広場の開設や大使館等と協力した各国の文化紹介展示、体験ワークショップを取り入れた日本の伝統文化を紹介する事業（令和2年度から廃止）を通して、日本人と外国人の相互理解の推進を図りました。また、長年続いている北京市朝陽区との書画交流展を通して海外との文化交流も推進しました。					
今後の方向性・課題	昨年度に実施した実態調査では、国際交流を推進するために、「日本人に自国の文化を紹介する」と回答した外国人と「外国人に日本の文化を紹介する」と回答した日本人が一定数いました。今後は、“文化交流”が行える国際交流も推進します。					

施策評価シート

施策④ 多様な主体との協働による国際都市としての魅力の向上と発信					A：達成、B：概ね達成、C：達成が不十分	
施策担当課	国際化・文化芸術担当	関係課		評価	B：概ね達成	
成果目標	大使館等と区の連携を深め、国際都市としての魅力が高まり、国内外に広く発信されている					
成果目標の達成状況及び評価	区内に立地する大使館等の実務担当者を招致し、自国民に対する行政情報の提供や自国の文化や伝統等を紹介していただく大使館等連携事業の説明を行い、連携・協力を図るとともに、企業や国際交流団体には、イベントの実施場所の提供や共催、外国人への情報提供で連携・協力を行いました。					
今後の施策の方向性・課題	多文化共生社会の実現を推進するために、さらなる連携先の発掘や既存の連携先との連携を強化します。					
施策の推進のため取り組んでいる事業						
1 大使館等との連携による国際交流					国際化・文化芸術担当	
活動指標	H29 (2017) (当初)	R2 (2020) (目標)	H30 (2018) (実績)	R元 (2019) (実績)	R2 (2020) (予測)	達成状況
大使館等実務者連携会議における大使館等出席率	28%	35%	41.60%	37.50%	35%	A：達成
達成状況	年2回、区内に立地する大使館等の実務担当者を招致し、実務者連携会議を開催しています。出席数は年々増加しています。会議では、自国民に対する行政情報の提供や自国の文化や伝統等を紹介していただく大使館等連携事業の説明を行い、連携・協力を依頼しました。					
今後の方向性・課題	実務者連携会議の出席者は年々増加する傾向にありますが、連携事業への協力数が低迷しています。引き続き、各国の地域や文化、伝統等を紹介する機会を創出する必要があります。					
2 多様な主体との連携による国際交流					国際化・文化芸術担当	
活動指標	H29 (2017) (当初)	R2 (2020) (目標)	H30 (2018) (実績)	R元 (2019) (実績)	R2 (2020) (予測)	達成状況
多様な主体との連携事業件数	50件/年	55件/年	41件/年	40件/年	10件/年	B：概ね達成
達成状況	地域社会に軸足を置きつつ、国際社会を舞台に世界で活躍してきた経験がある方々を集めた港区国際力強化推進会議を2回開催し、グローバルな視点から意見をいただき、区の施策や事業に反映し、港区の国際力を強化しました。また、国際文化交流団体、NPO、国際的な企業、大学、インターナショナルスクールなど地域の多様な主体との協働にイベント等の国際交流を推進しました。 新型コロナウイルス感染症の影響により、現時点において、企業等との連携事業が中止及び延期となっていることから、令和2年度の連携事業数については大幅な減少が見込まれます。					
今後の方向性・課題	様々な分野において、多文化共生や国際化を進めていくために、更なる連携先の発掘や、既存の連携先との連携を強化していきます。					